

秋葉就一の2022年3月質疑等とその後の調査

1. 公表発熱外来指定機関は八千代市に29

2021年10月下旬から県は、コロナ疑いの方の診察やPCR検査（予約）等が可能な発熱外来指定医療機関の一部を県HPで公表している。私の3月の予算委員会質疑の直後の数字と、7月5日現在の数字を比較してみました↓

公表指定外来医療機関数	3/7 現在	7/5 現在
千葉県全体	601	758
習志野保健所管内	46	63
うち八千代市内	20	29
うちかかりつけ医以外可	13	18
市川保健所管内	57	72

八千代市内の29機関は、約4ヶ月前と比べて約1.5倍なので、**好ましい増加が見られた**（医療機関の皆様へ深く感謝申し上げます）。また、県内人口に占める八千代市の人口は約3.2%なのに対し、7/5現在の県内の総指定外来（公表分）に占める比率は約3.8%なので、人口比よりも多いし、3/7現在よりも0.5ポイント増。

習志野保健所と市川保健所を比較する理由は、保健所検査となる場合、市川分を習志野保健所の検査課が対応する体制となっているから。**市川管内で医療機関検査が受けやすくなれば、八千代市民が習志野保健所検査を受けやすくなる。市川保健所管内の公表発熱外来の数はこの4ヶ月で約26%増とよかった**（ただ、県全体の増加率も同じ）。

さらに**重要なのは、「かかりつけ医以外の方でも可」として**いる公表指定発熱外来の数と割合。八千代市ではこの4ヶ月で1.3から約1.4倍の1.8に増えた。大変感謝しているが、割合はまだ約6割。県平均は約7割で、**市川市・浦安市・鎌ヶ谷市は約8割、習志野市も約7割**。

「かかりつけ医以外の方でも可」としている発熱外来が増えれば県民の安心はさらに増す。「かかりつけ医以外の方も可」とする公表発熱外来が増えるよう知事に要望中。

★秋葉の要望から県庁HPが改善

⇒ 感染状況が悪化しているかどうかを判断するのに**重要なのは、新規陽性者の数よりも、今現在の陽性者総数のうち何人が入院中・ホテル療養中なのかという数字**。

千葉県庁ホームページのトップページからその情報にたどりつくのが困難だったので、3/14の総合企画企業常任委員会で改善要望をしたところ、改善されました。具体的には、パソコンで見たトップ画面の右下に「千葉県のトピックス」があり、そこに「患者の発生状況」というリンクがあるので、それをクリックすれば入院中等の人数がわかる。

2. 太陽光発電設備等共同購入支援事業

県内自治体で2022年度も市町村の財源で**住宅用ソーラーへの補助を継続している団体**（14市5町）は、市が**千葉市・市川市・船橋市・市原市・流山市・浦安市・成田市・我孫子市・鎌ヶ谷市・茂原市・旭市・君津市・匝瑳市・香取市、町が酒々井町・神崎町・多古町・東庄町・芝山町**。これらの市町の中には、私が県に要望してきた、地元事業者と契約した場合は補助金を多くする制度にしている市もある。域内の産業振興になるだけでなく、共同購入支援事業よりも早く契約・着工することも可能なので、千葉県に再開を要望していますが、八千代市も9月補正予算での再開予算計上を検討すべきだろう。

他方で、千葉県は4月下旬から、「**太陽光発電設備及び蓄電池の購入を希望する県民や事業者を募り、一括発注することによるスケールメリットを活かした価格低減を促し、太陽光発電設備等の更なる普及拡大を図ることを目的とした共同購入支援事業**」を開始。応募締切は8月末日。

因みに、2019年度から神奈川県が始めており、2020年度以降の導入が大阪府・大阪市・京都市・熊本県・北海道（一部のみ）・岩手県・群馬県・長野県・神戸市。

3. 東葉高速の通学定期券の販売状況

3/14総合企画企業常任委員会で私は、東葉高速鉄道の通学定期の販売状況を対前年度及び対前々年度との比較で尋ねました。**県交通計画課によると、前年度比ならプラスの40.5%、対前々年度比だと36.2%の減となっている**という。通学定期券の販売収入そのものは、同社の運輸収入に対してわずかな比率でしかない。だからと言って影響が小さいというわけではなく、高校生などが東葉高速の便利さと速さに慣れ親しんでいけば、社会人になってからも同鉄道の沿線に住んでくれる可能性が高くなる。

4. 交通死亡事故対策が実現

12月議会の一般質問で、過去数年以内に八千代市内で起きた交通死亡事故の再発防止策を質しました。

下の写真は、**2016年7月に米本で起きてしまった交通死亡事故の現場で、その時に塗り直した「止まれ」の文字がかなりうすくなっていた**ので、塗り直しを要望した

ところ、今年の2月にはきれいに塗り直しされていました。

事務員・地方議員
志望者募集中

